



日々雑感

コロナ禍の影響で、今年度も講義のほとんどはオンラインを中心に行っている。Google Classroomというシステムを利用して録画講義の配信やレポートの提出・採点を一元管理しているのだが、この使い方がなかなか難しい。昨年度一通り経験したはずなのに、大事な設定の仕方を忘れてしまって、アタフタしている。もしかしたら、Google Classroomの仕様が変わったのかもしれない、と自分の記憶力の悪さを責任転嫁。例えば、オンデマンド配信の視聴を認めているので、講義の視聴確認のため毎回レポート課題を課しているのだが、うっかり「資料」というところから課題を出してしまうと、学生が回答を提出することができない。正しくは、「課題」というところから出さないといけない。個別に学生に連絡を出すつもりで、間違っただけで学生全体（ひいては他の講義の教官まで）に連絡してしまう、ということもしばしばやってしまう。デジタルネイティブ世代でない私には仕方ないことかも、と開き直っています。

それはさておき、非生物系の学科の（物理、化学、数学、地学）1年生150人に行っている生化学の講義は、なかなかの難敵である。対面で講義を行っていた時は、学生の反応をみることができるので、内容が伝わっていないなと感じれば、その都度、講義の軌道修正ができるのであるが、オンライン講義では、そうすることが難しい。特に、非生物系の学生はタンパク質、糖、脂質、核酸など、どの

ような内容の講義をするにしても登場してくる分子をそもそも理解していないことが多く、苦労している（かくいう私も非生物系の学生であったので、大学の生物の授業についていくことは、とても難しかった。余談だが、レーニンジャーの生化学が教科書として使われていたように思う）。これら分子の代謝経路の話に興味をもってくれるように話をするのは、さらに難易度が高い。一方、オンデマンド講義の利点として、あらためて私がここで書くことでもないが、何度も講義を視聴できることは重要な点である。生化学を面白いと感じてくれた非生物系の学生にとってはオンデマンド講義は好評で、コロナ禍前の対面講義と比較して、わからなかった点についてメールで質問を多く受けるようになった。私にとっても、どのパートが難しかったのか、確認することができることは大変有難い。講義開始時は全く頓珍漢な回答をしていた学生が、講義が進む中で立派な回答をするようになるのを見るのは教師冥利に尽きる。毎週150名からのレポートを採点するのはかなりの労働力だが、そのような学生さん達の成長を見ることを喜びとして、講義を頑張ろうと思っている。コロナが終息して対面講義に切り替わったとしても、オンライン講義で得た有形無形の経験は是非活かしていきたい。

まとまりの無い話になり恐縮だが、最後に昨年今年を振り返って。私がいる地では、つい最近までツツジが綺麗に咲き誇っていた。さて昨年はどうだったろうかと考えると、桜もツツジも愛でた記憶が全く出てこない。そういえば、あれ、今年の桜の記憶も出てこない。きつとつい最近まではコロナへの対応に忙殺されていて、心に余裕が無かったのだろう。逆に、今は心に少しだけ余裕が出てきたサインなのかもしれない。まだまだコロナには油断できないが、満開の桜を楽しめるような来年の春を、皆と迎えられるようになることを切に願っている。

（龍鋸）